群馬県立高崎高等学校（全日制）学校評価一覧表②（令和4年度版）

（様式2）

羅針盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
Ⅰ ３Ｆ精神に根ざす活力ある高高生を育成し、活気にあふれた特色ある学校づくりに努めていますか。 （全体・生徒部）	１ 生活規律を確立する。	① 各学期１回挨拶週間を設定する。 ② 式典時の服装意識の向上やチャイムスタートを徹底する。 ③ ＳＮＳに関わるトラブルを無くす。	B A A	B A A	B A A	職員による年間を通しての登校時挨拶運動に加えて、生徒会生徒による取り組みも有効であった。ＳＮＳについては情報モラル講習会を行い、情報リテラシーが向上した。	SNSの恐いところはいつでも誰かとつながっていることである。情報リテラシー教育のより一層の充実をお願いしたい。	職員と生徒が連携して継続的な取り組みを実施していく。効果的な情報モラル講習会を開催するとともに、規範意識を高められるよう定期的に呼びかけていく。
	２ 交通安全を推進する。	④ 自転車重大事故０件。 ⑤ 職員・生徒で定期的に交通安全指導を行う。 ⑥ 駐輪場でのトラブルを無くす。	A B A	A B A	A B A	現地での指導や集会等で実際の映像をもとに全体指導を行うことは効果的であった。生徒の交通安全意識は向上したが課題が残る。	生徒の交通安全のために、今後も生徒部を中心に継続的な指導を行ってほしい。	現地指導や具体的な事案をもとに映像等を使用して指導していく。新入生には合格者オリエンテーションや授業等で丁寧に指導していく。
	３ 教育相談業務を充実させる。	⑦ 定期的に教育相談・生徒部会議を実施する。 ⑧ SC等を有効活用するためのマネジメントを教育相談係が中心になり行う。	A A	A A	A A	該当生徒に関係する教諭が組織的に迅速に対応し、解決に結びつけることができた。	勉強だけでなく部活動や行事の充実が生徒の心の安定や人間的成長に重要である。きめ細やかな対応をお願いしたい。	組織として対応できるよう関係職員とは連携を密にし、情報共有を図る。事案に対し当該生徒だけでなくその保護者に対しても丁寧に対応していく。
	４ 生徒会活動を充実させる。	⑨ 生徒会諸行事の成功・定期戦の勝利・翠巒祭の成功。 ⑩ 部活動加入率の増加・高校総体優勝。上位大会への出場数を増やす。 ⑪ 地域の清掃活動や社会に貢献できるボランティア活動に取り組む。	A A B	A A B	A A B	今年度もコロナ禍での対応がほとんどであったが、生徒が積極的にまた主体的に取り組み行事を成功させることができた。部活動において、コロナ禍で制限のかかる中で感染対策を徹底し、活動できた。	翠巒祭や定期戦の体験は貴重である。コロナ禍でも対策を徹底した上で大きな学校行事を実施できていることは評価できる。生徒には高高生活の醍醐味を味わせたい。	行事においてはコロナ禍の対応も考慮しながら生徒が主体的に取り組めるよう指導していく。部活についても感染対策を踏まえた上で活動し、結果（競技力の向上等）に結びつけられるよう工夫する。
Ⅱ 健康と安全への理解を深め、学習環境と教育設備の整備に努めていますか。 （保健環境部・事務部）	５ 健康な身体と健全な精神を育成するため、自主的・積極的に心身を鍛えることができる資質・能力を養う。	⑫ 「保健だより」を毎月発行する。 ⑬ 家庭に向けての受診の呼びかけを強化する。	A B	A B	A B	「保健だより」の発行が不定期ではあったがコロナ関連の情報については、適宜発信することができた。	生徒や職員が健康を意識するよい機会になっていると思う。	健康関連情報の更なる発信を目標に、「保健だより」の定期的な発行を目指す。
	６ 健康的で落ち着いた集団生活を維持するために、安全で衛生的、かつ快適な学習環境を整備する。	⑭ 保健委員による校内巡視を毎月実施する。 ⑮ 学習環境が快適であると感じている生徒が８０％以上である。	B A	B A	B A	職員及び生徒による校内巡視は必要に応じて実施できた。学習環境についても、必要な点検・整備をその都度行った。	校内安全衛生委員会でヒヤリハットを共有していることは安全対策に効果的である。	定期的に校内巡視を実施し、換気を含めたコロナ対策もしつつ、快適な学習環境の整備に努める。
	７ 校内美化の推進及びゴミの分別・減量を徹底する。	⑯ ゴミの分別を徹底する。	A	A	A	ゴミの持ち帰りを強く呼びかけることで、ゴミ分別の徹底を図ってきた。	ゴミ分別の指導徹底が今後の課題の一つである。	引き続きゴミの持ち帰り、及びゴミの分別を徹底する。
	８ 防災意識を高める。	⑰ 訓練時の行動に関する生徒の自己評価が９０％以上である。	A	A	A	災害に対する危機意識は高く、訓練にも真剣に取り組む様子が見られた。	体育館が地域の緊急避難場所になっている共通理解は必要。	危機意識を常に持ち、定期的に訓練を実施する。
Ⅲ ＰＴＡ・同窓会・地域と連携し、本校の教育活動を発展させていますか。 （広報渉外部）	９ ＰＴＡから信頼される学校を目指す。	⑱ ＰＴＡ総会の出席率が６０％を超える。 ⑲ 学年保護者会に出席率が９０％を超える。	C B	— B	C B	ＰＴＡ総会を対面で実施することができたが出席率は５１％、保護者集会の出席率はオンラインの参加を含めて目標値を達成した。	コロナ禍やアフターコロナにおける開催の仕方は検討が必要である。	ＰＴＡ総会や保護者集会の出席率をどのように伸ばしていくかが課題である。実施方法や内容等を検討していく。
	１０ 同窓会から大いに支援される学校を目指す。	⑳ 同窓会新年総会、常任理事会、理事会で毎回現況を報告する。 ㉑ 「先輩教えてください！」を40以上の事業所で行っていただくとともに、内容の充実・発展に努める。	A A	A A	A A	同窓会理事会等で，双方向のやりとりが行えた。 「先輩教えてください！」は40以上の事業所の協力を得て、充実した内容となった。	生徒にとってたいへん意義のある企画になっている。この企画を通して生徒がどのように変容したかを事業所に伝えられるとよい。	「先輩教えてください！」は安定して実施できているが、マンネリ化しないよう内容を再確認していく。
	１１ 地域から信頼される学校を目指す。	㉒ 「翠巒セミナー」に地域の方々の5人以上の参加を実現するとともに、内容の充実・発展に努める。	—	—	—	翠巒セミナーは中止となった。	翠巒セミナーの在り方は、今後検討が必要。	翠巒セミナーの実施方法をオンラインを含め、検討していく必要がある。
	１２ 情報管理を徹底した上で、情報モラル、セキュリティの意識向上を図るとともに、Ｗｅｂページを随時更新することで地域に向けて積極的に情報を発信する。	㉓ 職員の情報モラル、情報セキュリティの意識向上を図る。 ㉔ 教員のICT活用実践例を増加させる。 ㉕ 常にWebページを最新の情報に保つ。	A A A	A A A	A A A	年間を通して必要な情報を職員に提供できた。次年度も継続していく。 Webページは常に最新の情報を投稿できた。	情報源としてのスマホの有効な活用方法について、生徒に指導していくことも必要である。	引き続き、情報モラル・情報セキュリティの意識向上のため情報、ICT活用実践事例に関する情報を提供する。 次年度もWebページを常に最新の情報に保つ。
Ⅳ 質が高く、内容が豊かな「力のつく授業」を展開し、学力を向上させていますか。 （教務部）	１３ 適切に授業時間を確保し、力のつく教育課程を編成し実施する。	㉖ 臨時時間割の、行事前の日程に余裕を持った提示と、入替の、年間行事予定表への記載。新学習指導要領に対応する教育課程の最終調整と授業時間割を確定する。	A	B	B	60分授業（カセット方式）を、導入初年度として、概ね軌道に乗せることができた。授業アンケートの結果をもとに、授業の質の向上に努める。	60分授業（カセット方式）は初年度ではあるが軌道に乗っていると感じる。	引き続き、臨時時間割の編成、曜日観の授業の入替、カセット日の設定を、円滑に実施する。 また、令和５年度新教育課程を円滑に実施する。
	１４ 校内諸活動計画の調整を行う。	㉗ 調整ミスによる直前の計画変更や、当日の中止いった事態を起こさないこと。	A	A	A	各学年、分掌との連絡を密にし、情報を共有することで適切に授業時間を管理することができた。	コロナ禍であっても計画していた諸活動は予定通り実施できてよかった。	引き続き、各部所との連携を密にし、学校行事と諸活動を意義あるものもするとともに、授業時間の適切な管理に努める。
	１５ 教員個々及び集団としての教科指導力の向上と授業改善を推進する。	㉘ 教員１人あたり年２回以上実施し、クロスカリキュラムは１回実施する。 ㉙ 新しいシラバスを評価する生徒が80％以上である。	A A	B A	B A	教科の枠を越えたクロスカリキュラム授業を推進することで、授業の質の向上が図れた。新しい観点別評価も軌道に乗せることができた。	クロスカリキュラムの目的に沿って生徒は力を伸ばしている。教員の指導力の向上にも繋がっている。	引き続き、ＳＳＨ部と連携し、教科の枠を越えた授業研修を推進することで、教員の授業力向上を目指す。
	１６ 成績処理・各種教務関係書類作成等の事務を正確かつ適正に実行する。	㉚ 教務部の係ごとの打合せ回数を増やす。	A	A	A	情報管理係を中心に、適宜改良を重ね、ミスのない成績処理・書類作成ができた。また、情報課、進路部と連携し、手続きがよりシステム化された。	ダブルチェック体制の強化により、正確な成績処理が行えた。	引き続き、教務部内外との協力体制を密にし、適正な成績処理、書類作成を確実に行う。

群馬県立高崎高等学校（全日制）学校評価一覧表②（令和4年度版）

（様式2）

羅針盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
Ⅴ ３年間を見通したキャリア教育を推進し、進路目標を達成した上で、自己実現を図っていますか。（進路部）	１７ 高い志を育成し、学ぶ意味を知り、自ら学ぶ生徒を育てる。	㉛ 学習時間の増加 部で活動中：平日最低2.5時間 部活引退後：平日最低3.5時間 ㉜ １年次：志の明確化 ２年次：学部・学科の明確化と志望大学の決定 ３年次：受験大学の確定 ㉝ 志と夢の明確化とそれを叶えるための具体的道筋の理解 ㉞ 自己肯定感を高め、夢を叶えるために自ら学習に取り組む。	B A A A	B A A A	B A A A	様々な活動を行いながらも目標学習時間を達成している生徒が多い一方で、低学年次の目標学習時間の達成状況が減少傾向にある。 進路行事や進路資料、集会等での情報提供により、生徒の満足度は95%,保護者の満足度も98%と高い水準に達している。	低学年の学習時間が減少している原因等について分析したことを今後の指導に生かしてほしい。	低学年から家庭学習の意識を高めるために、生徒の実態把握や丁寧な個人面談を一層充実させる。ＳＳＨ活動との連携を強くするとともに、学ぶ意味を伝えながら、進路への志を明確にすることが重要である。そのために、LHRや集会の時間を効果的に設定し、自らの進路について考える時間や振り返りの場面を確保する。
	１８ 学力・進学実績の向上を達成する。	㉟ 授業アンケート平均点の向上。 ㊱ 模試の成績向上 １年次：英数国総合ベネッセ偏差値　６５ ２年次：英数国総合ベネッセ偏差値　６５ ３年次：英数国総合ベネッセ偏差値　６２ ㊲ 教師・生徒の信頼関係の向上と模試の成績向上。シラバスの利用率100%。	A B A	A B A	A B A	授業改善の意識が高く、前期から後期にかけて授業アンケートの平均点も向上している。 定期的な模試分析・検討会を学年内で実施することで、３学年は目標値に達成している。 シラバスの満足度も生徒アンケートでは95%で非常に高い。	先生方の授業の雰囲気は安定していて、黒板やＩＣＴの使い方が上手で、要点が一目で分かる。	新学習指導要領に対応した授業実践および評価方法を踏まえた教科指導を継続していく。授業計画に加えて、課題や補習等の計画を見直し、より効果的な取り組みとなるように進路部、学年、教科の連携を強化する。生徒に対しては、校外模試を中期目標として、苦手教科の克服を目指して総合力を向上させる。
Ⅵ ＳＳＨ事業を効果的に運営して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度を育成していますか。（ＳＳＨ部）	１９ 課題研究やクロスカリキュラムは全職員体制で取り組む。	㊳ クロスカリキュラムの実践事例が24事例以上。 ㊴ 教材開発・授業検討を含めて、クロスカリキュラムの取組みをしたことのある教員が80%以上。	A A	A A	A A	授業改善研修の一環として、ほぼすべての先生方がクロスカリキュラムを実践できた	教員が自分の授業の発展性を考える大きなきっかけになっている。	実践例を効果的に配置し、全生徒が受講できるようにカリキュラム化を図る。
	２０ サイエンス・プロジェクトⅠ・Ⅱβ・ⅢにおいてR-PDCAサイクルを実践する中で課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度の基盤を主として育成する。	㊵ 職員間で具体的に育成すべき生徒像や課題研究の指導方法を共有できている状態で課題研究Ⅰ・Ⅱβ・Ⅲの指導に職員があたる。 ㊶ 1学年及び2学年全体で実施の課題研究終了時にR-PDCAサイクルの一連の流れを経験している生徒が80%以上である。 ㊷ ３学年全体で研究ポートフォリオの作成を通して、探究の手法を整理できた生徒が70%以上である。	A A A	A A A	A A A	生徒に身につけてほしい資質・能力を12項にまとめた。SSH部の定例会議を廃止したが、メール等でＳＰの学年担当の先生を中心に密に連携を取り、情報共有を図れた。	科学リテラシー講座については、講師の先生方の資料や動画が工夫されていてたいへん面白い事業である。職業観の育成や他分野への興味の発展に繋がるとよい。	育成したい資質・能力を職員間で共有し、指導に当たる。担当職員が変わっても円滑に課題研究が実施できる体制をさらに構築する。３学年で実施するこれまでの課題研究等を振り返り自身のキャリアについて考える課題研究のカリキュラムの質をさらに向上させていく。
	２１ SSHクラスのサイエンス・プロジェジュトⅡα・Ⅲにおいて、理数分野のR-PDCAサイクルを実践することで、課題を解決するために必要な思考力･判断力･表現力、主体的に学ぶ態度を深化させる。	㊸ SSHクラスの90%が3学年の課題研究終了時にR-PDCAサイクルを一巡できている。 ㊹ 統計学や数理モデルの考え方を活用した課題研究を行う生徒が全体の60%のグループで現れている。	A A	A A	A A	SSHクラスにおいては、R-PDCAサイクルを少なくとも６サイクル回すことができた。また、統計処理が必要なデータを取得した班については、ほぼ統計処理が適切に行われていた。	課題研究のレベルが高く、プレゼン力は学年を追う毎に向上している。	課題研究の時間をさらに確保するために、課題研究ポータルサイトを作成し、いつでも閲覧できるようにして、講座を減らす。来年度、２学年全クラス実施となるサイエンス・コミュニケーションⅡを効果的に活用し、データサイエンスの知識・技能を強化する。
	２２ ＳＳＨの活動を一層普及させ、科学に対する興味関心を向上させるとともに自己実現に向けて主体的に学ぶ態度を育成する。	㊺ SSH事業の課外活動に対してSSH事業の課外講座に100名程度の生徒が参加できるようにする。	A	A	A	内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞、総務大臣賞の受賞など卓越した成果を上げることができた。課外講座についても十分な生徒が受講した。	課題研究のバリエーションが増えて、個に応じた研究が持続できるようになった。成果も著しく向上した。	科学オリンピック等では成果がでていないので指導体制について検討する。課外講座については、校外の講座も充実してきているので、本校独自の講座とのバランスを取る。
Ⅶ 読書習慣を形成し、図書館活用の活性化を図っていますか。（広報渉外部）	２３ 生徒の読書習慣を早期に育成する。	㊻ 貸出冊数が２，５００冊を超える。 ㊼ 月平均３００人以上が図書館を利用する。	B B	A A	A A	貸出冊数は、2754冊（1/18現在）である。 貸出利用は月平均160名であるが、閲覧や自習、授業、イベント等の利用者も多く、目標は達成できたと考える。	図書館の環境改善が大きく前進した1年であった。	検索の利便性を高めたことにより、貸出冊数が増加したので、今後も啓発に努める。 書庫や書架の整理を進め、利用者増加につなげた。さらに快適な空間作りを目指す。
	２４ 図書館利用の活性化と蔵書管理を徹底する。	㊽ 多読者・多読クラスへの表彰。 ㊾ 月に1度のペースで図書間企画と蔵書管理を実施。	A A	A A	A A	多読者・多読クラスについて、「図書館通信」等で、周知した。 定期的に図書間企画を実施し、図書管利用者が増加した。	「先輩の本棚」のコーナーが設置され、生徒の読書意欲に繋がった。	読書週間の企画等を工夫し、生徒の身近な場所になった。今後も継続する。 生徒が楽しめるイベントを開催しているが、さらにその質を高めていきたい。
	２５ 図書委員会の活動を充実させる。	㊿ 「図書館便り」の年１０回発行。	B	A	A	「No Book No Life」「図書館通信」「日輪」と、三種の「図書館便り」をそれぞれ１０回以上、合計３０回以上発行した。	定期発行物の効果も高いが、SNSで本を紹介する企画も有効ではないか。	ＰＯＰコンクール、黒板アート、読みぐすり等、さまざまな新たな企画を、図書委員がやりがいをもって実施していた。来年度は、さらに継続・発展していきたい。
	２６ ＳＳＨ課題研究論文の作成を支援する。	(51) ＳＳＨ関連図書を質、量ともに充実させる。	A	A	A	ＳＳＨ予算を活用して書架を購入し、新規に１４３冊のＳＳＨ関連図書を購入した。	本に興味を持てるように工夫することが大切である。	レファレンス申込書を用意し、書架も増設した。今後も関係部署との連携を強化したい。
Ⅷ 教育のデジタル化に努めていますか。（情報課）	２７ ＩＣＴを活用した指導を行っていますか。	(52) デジタルツールを用いた授業が80%以上である。 (53) デジタルツールを活用した授業に生徒の80%以上が満足している。	C A	C A	C A	デジタルツールを用いた授業は増加しているが、80%以上には至っていない。 授業アンケートでは生徒から90%以上の満足度を得ている。	授業のＩＣＴ化に向けて、若い教員のスキルがベテランの教員へと伝わっていく組織的な取組はたいへんよい。	ＩＣＴ活用実践事例や研修などの情報を共有して活用を推進していく。 授業アンケートなどの結果を踏まえて授業改善を推進していく。
	２８ ＩＣＴを活用した業務改善を行っていますか。	(54) オンラインによるアンケートを年3回以上実施している。 (55) オンラインによる通知の割合が５０%以上である。	A A	A A	A A	多くのアンケートをFormで実施できた。 朝会連絡だけでなく、会議資料のデジタル化も実施できた。	ＩＣＴ化が教員の業務軽減に繋がり、生徒に対峙する時間が確保できるとよい。	今後も継続してデジタル化を推進していく。